
いっぱんしみをまきこまないほうこうでおねがいします。

香月一波

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いっぱんしみをまきこまないほうでおねがいします。

【Nコード】

N3211W

【作者名】

香月一波

【あらすじ】

「あらすじ何それ美味しいの？」

「いや、美味しい美味しくないは関係なさそうなんだけど」

「ツツコミ侍ファイト！」

「ツツコミ侍って何だ?!」

自由人（無自覚）とそれに振り回されるお兄さん達のお話。

「壬生浪？」

「あれ何か違う」

ぷろろーぐ。

とんだとんだ扱いだ。私が何やったって言うんだ潰すぞ。美形揃いでゴチソウサマデス☆みたいな気分になりとはなったさ。でも、

これはないんでないかい？

自分では少しモノを知り過ぎた小娘だと思っていた。そろもう性格歪んでるし。変に大人びてるし。耳年増ですけど何か？ ケイケンは無いかどネ！

ちゅーは愛しの義弟に捧げたとか言うと言弊があるが、よーちえんじだ許せ。

そんな感じのピチピチ☆な女子高生ですよ、え死語何それ美味しいの？

そんな私がまさかの幕末にタイムスリップ的な☆

.....
しにたい。

ぷろろーぐ。(後書き)

見切りし過ぎなくらい見切り発車です。

自由系暴走少女と振り回され系カッコいいお兄さん達の基本のんびりなお話にしたいな、と思ってます。

カテゴリは歴史にしてあるけどはつきり言って、多分要素ほぼ無しになりそうな予感。

その上何だか黒髪美人なにーさんが色男過ぎて若干エロ（下ネタ：？）に走り兼ねないので一応R15。

そんな感じですがよろしくお願いします。

わたしがなにをしたというのか。

その日、ストレスが溜まりに溜まっていた。

「うにゃーッ！ 腹立つううう！ 今に見てろ、私の方がゆ・う・しゅ・う！ なんだからなああ！」

ストレス発散inバツティングセンター。かきーん、と見事（超偶然）にバットに当たったのである意味ホームランに匹敵するんじゃない？ とかはしゃいでいると。

「……あれ？」

「ふへ？」

よくよく見なくても此処何処ですか？

「ちーがーいーまーすーよー、私一般人！ 一般市民過ぎる程一般市民ですよ！」

「何ほざいてやがる、問者（スパイの事）だろーがあからさまによお」

「いや、こんな目立つ問者いねーですよ、副長」

畳をバンバン叩きながら訴える私の発言をスルーしてくる黒髪ヤロ。人の話を聞け。若干茶色めな青年が冷静に突っ込んでるじゃないか。それに患者って誰が患者だ。寧ろお前らだろうが。この現代日本で着物なんか着て——着物素敵ですね写真撮ってもいいですか。つかバット返せ借り物なんだよバツティングセンターのなんだよそれえええ！

「で、何処のモンだ？ 長州か？ ん？」

「…んだコイツ話通じてねーんですけどマジうぜえ殴りてえんですけど」

「おい、がつつとか言ってんぞ畳が傷むだろー」

そう止めてきたのは唯一此処で名乗ってくれた藤堂平助さん。背丈はそんなに高くなくて（目測160くらい）、見た目もまだまだ幼さを残している。これで二十歳越えてるとか詐欺だと思っています。平ちゃんって呼びたい。でも流石に馴れ馴れしいので黙ってる。

「つーか、まず名乗れって。だから土方さん余計キレるんだって」呆れながらそう言うけど、人に聞く前に名乗れっつー話なんですよ。あ、藤堂さんはいいいよ、名乗ってくれたから。

「えー、藤堂さんみたく親切な人には喜んで教えますけど、こんな礼儀知らずに何で教えないとなんですかー。嫌ですよー、顔だけしか良くない男なんて。ていうかあの人士方っつー名前なんですネ、藤堂さんといい、新撰組っぼい、」

ざざっ、とか音がしたと思ったら、首元に光るナニか。「……」ホールドアップってヤツですか。

「へ、へるぷみー？」

「side↓××」

平助が変なモンを拾ってきた。

何だか短い袴を身に付けた、多分女子。

あの土方さんに噛みついてる。大抵女子ってああいうのに弱いのに。

というか、平助は“コレ”の名前知ってるのか。ふうん……やっぱり拾い主だからかな。

……まあ、いい暇潰しにはなるか。せいぜい楽しませて貰おう。

———どうせ数日の命なんだからさ。

わたしがなにをしたというのか。 (後書き)

……何で最後ちょっとブラック入ったんだろう。 (オイ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3211w/>

いっぱんしみをまきこまないほうこうでおねがいします。

2011年11月12日08時33分発行